

交流から つながろう

おじいちゃん、おばあちゃんとの交流をとおして

12時間

目的

- ① 高齢者との活動をとおして、自分自身を大切に思う心、相手の立場に立って考え、協力しようとする態度を育む。
- ② 人によって生活する上で必要なものが異なることを知り、それを尊重するとともに、自分の役割や仕事を責任を持って果たそうとする態度を育む。
- ③ クラスの仲間や高齢者との交流をとおして、対話を大切にし、グループとしての意見をまとめる力を身につける。

小学校低学年

■ テーマ設定の理由

低学年は、具体的な活動をとおした思考を繰り返すことで認識力が高まってくる時期であり、また、友達との遊びや当番・係の仕事など様々な活動を通じて次第に自主性が増し、立場を認めたり、理解したりする能力が発達してくる。

こうしたことから、野菜づくりという活動をとおして、児童が自然や地域の人たちとふれあい、豊かな人間関係を築きながら自己を成長させる場を設定することとした。まず、活動1「お話をしよう」では、「魔法のマイク」や「コミュニケーションカード」を用いて、自分や他人に興味を持ちながら話したり聞いたりする力の基礎を培うこととした。活動2「いっしょに野菜づくり」では、高齢者に教えてもらいながら野菜を作ることをとおして、自分を包んでくれているという感覚や安心感を味わわせるとともに、仲間と協力しながら責任を持って自分たちの仕事に取り組むことの大切さに気づかせることとした。活動3「いっしょに考えよう」では、高齢者と共に「人権カード」を振り分けていく作業をとおして、自分たちと高齢者とは必要なものが違うことに気づかせることとした。また、交流のまとめとして、「プレゼントカード」を作るときには、活動2・3において作りためておいた、絵・写真・観察文・感想文などで考えたことや感じたことをもとに、今までの活動を振り返らせることとした。

高齢者から温かいメッセージをもらったり、野菜づくりで身近な自然に触れたり、仲間と協力したりと、現代社会において希薄になりがちな人・社会・自然との関わりをより一層深めさせたい。また、何事にも自らかかわろうとする意識を育み、多様な生活体験に基づく気づきから、想像力や認識力を高めていきたいと考える。

■ 活動の流れ



※ は、「基本方針」の目標に対応する主な概念を示しています。

活動 1 お話をしよう

2 時間

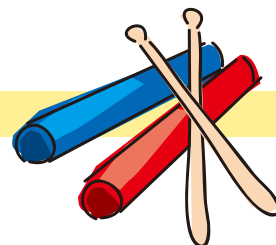
目標

- 友達と話し合う活動をとおして、人それぞれの思いがあり、そのどれもが大切なことに気づく。
- 話を聴いてもらうことの気持ちのよさに気づき、自分に自信が持てるようになる。

STEP 1 コミュニケーションカードゲーム・・・(2 時間)

準備物

魔法のマイク、コミュニケーションカード (P40)



学習活動 …………… (全員での学習)

1 輪になって座りコミュニケーションカードゲームをする。

ゲームの方法

- (1) コミュニケーションカードを裏返しておきます。
- (2) 1人ずつ順番にカードをめくります。
- (3) カードに書かれていることについて、魔法のマイクを使って話します。
- (4) 話し終わったら、拍手をしたり、「話してくれてありがとう」と言ったりして、話すことを負担に感じないように配慮しましょう。
- (5) カードに書かれていることで話すことが思い浮かばない場合は、無理をせずに次のカードをひくようにしましょう。



「魔法のマイク」の説明

- ・ドラムスティックやバトンなどを「魔法のマイク」とすることにします。
- ・「これは魔法のマイクです。このマイクを持つと言いたいことが安心して言えます。このマイクを持った人が話す人、他の人は聴く人です」のように紹介します。
(マイクがあると不思議なもので、話す人、聴く人という意識が生まれます。マイクは、親しみをもてるものを自作するとよいでしょう。)

2 感想を発表する。

- ・自分のことを話して、友達に聴いてもらえた時の気持ちについて話し合わせましょう。

ポイント

- 安心して話せる雰囲気を作りましょう。
- 友達の話に相づちを打ちながら聴くように助言してください。
- 話すときには、みんなに見えるように立つことや、聞き取りやすい声で発表することも併せて指導しましょう。

■ コミュニケーションカード

<p>あなたがいちばんたいせつにしているものについて、はなしてください。</p>	<p>いっしゅうかんでいちばん好きなようびはなんようびですか？ どうしてですか？</p>	<p>あなたのだいすきなテレビばんぐみについて、はなしてください。 どうしてそれが好きですか？</p>
<p>あなたはいままでずるをしたくなかったことはありますか？ あれば、どんなときですか？</p>	<p>あなたが、いちばん好きなスポーツとそのりゆうについて、はなしてください。</p>	<p>あなたのだいすきなおとなのひとはどんなひとですか？ どうしてですか？</p>
<p>もし、あなたがせんせいだったら、どのきょうかをおしえたいですか？</p>	<p>あなたの好きなあそびはなんですか？ どうしてですか？</p>	<p>あなたにとって、いちばんむずかしいきょうかはなんですか？</p>
<p>あなたは、つぎのたんじょうびになにがほしいですか？</p>	<p>あなたのゆめはなんですか？</p>	<p>あなたは、さびしいとき、なにをしますか？</p>
<p>あなたがいやだとおもったときのことを、はなしてください。</p>	<p>あなたがいちばんうれしかったときのことを、はなしてください。</p>	<p>あなたがやってみたいことはなんですか？ どうしてですか？</p>
<p>予備カード</p>	<p>予備カード</p>	<p>予備カード</p>

※予備カードは、子どもの実態に合わせて作りましょう。



目標

- ・高齢者と共に活動することとおして、高齢者の優しい心遣いに気づくとともに、自分の役割に責任を持って取り組もうとする。

STEP 1 いっしょに野菜を育てよう・・・(4時間)

ねらい

- ・高齢者との活動をとおして、野菜づくりの知恵や技術を学ぶとともに、優しい励ましや心遣いにふれることで、自分が大切にされているという安心感を得る。
- ・野菜づくりに必要な仕事を知り、協力しながら責任を持って取り組むことができる。

学習活動

1 どんな野菜を育てたいかを考える。

- ・野菜をどのように食べるのかという見通しや楽しみを持って、育てる野菜を決めさせましょう。
 - 例 「ナスやトウモロコシはゆでたり、煮たりして食べる」「サツマイモでお菓子を作って食べる」「ミニトマトは洗って食べる」等

2 地域の高齢者に野菜づくりについて聞く。

- ・どのような野菜が作れるのか、どのように育てるのか、何が必要かを調べさせましょう。

3 野菜の世話をする。

- ・育てるために、誰が何をすればよいかを話し合わせましょう。
- ・育てていく中で困ったことを高齢者から教えてもらう機会をつくりましょう。



ポイント

- 高齢者の仕事の様子を見学するだけでなく、「困ったなあ、どうしよう」という問題に出くわした時に高齢者に尋ねる活動を大切にしましょう。
- 友達の様子に目を向けている発言があれば、注目させましょう。
- みんなで決めた役割やきまりを、責任を持って果たすよう心がけさせましょう。
- 成長のようすを観察し、世話をしてきたことをたたえ合い、満足感をもてるようにさせましょう。



STEP 2

いっしょに収穫祭をひらこう・・・(3時間)

ねらい

- ・高齢者との活動をととして、生活していく上での知恵や人に対する優しさを学ぶ。
- ・高齢者に学び、対話を大切に、協力しようとする。
- ・相手の立場に立って考え、気持ちを想像し共感できる。

学習活動

1

畑に出かけ収穫する。

- ・指導者も歓喜の声をあげ、喜びを表現するようにしましょう。また、子どもたちの今までの活動のがんばりをほめるようにしましょう。

2

収穫祭の計画をたてる。

- ・収穫した野菜の調理の方法について、グループで話し合わせましょう。
- ・グループで準備物などの計画を立てさせましょう。

3

収穫祭をする。

- ・高齢者と一緒に調理させ、楽しい雰囲気食べたり、話をしたりさせましょう。



ポイント

- 調理の方法について高齢者に尋ねさせてもよいでしょう。
- 高齢者が食べ物を大切にしていることや様々な生活の知恵を持っていることに気づかせ、親しみを抱き、尊敬する気持ちを育みましょう。



ポートフォリオ ～活動を記録しましょう～

ポートフォリオとは、もともと「書類や作品などを入れるファイル」のことです。そこから、学習途中で生まれる成果物（文章・絵・作品・返却されたテスト用紙・調べ学習の情報メモ、新聞の切り抜き・写真など）を一元的にファイルしたものを表す教育用語となりました。

本テーマ学習においては、「高齢者から教えられたことや声をかけられたこと」のメモや、「野菜の成長の様子」を書いた絵日記や写真などをクリアファイルに入れて保管しましょう。低学年の場合、ファイルに残しておくものを、教師が活動ごとに指示をする必要があります。そのとき、学習活動の目標にそって、「何がどれくらいできたか」「何がわかったか」「どんなことを感じたか」などがわかるようなシートに書かせておくこともふりかえりの時に役立つよい方法です。大切なのは、活動の途中や最後にポートフォリオで自分の学びを振り返って自己評価し、次の活動に取り組む意欲を高めることです。また、自分の学んだ成果を振り返ることは、「これだけのことができた」とセルフエスティームを高めることにもつながります。



ふりかえりシート

なまえ _____ とき _____

◇わたしができるようになったことや変わったことは、_____です。

◇わたしが気づいたことは、_____です。

◇わたしがおどろいたことは、_____です。

◇わたしにとってむずかしかったことは、_____です。

◇わたしがうれしかったことは、_____です。

◇わたしにとって必要だとわかったことは、_____です。

◇わたしがこれから実行しようと思ったことは、_____です。

◇その他気づいたこと、考えたこと、書いておきたいことは、_____です。

コメント(教師や他の児童から) _____



活動 3 いっしょに考えよう

3 時間

目 標

- ・人によって生活する上で必要なものが異なることを知り、友達の考えを大切にしようとする。
- ・友達との対話を大切にしながら、意見の一致をめざして話し合うことができる。



STEP 1 いっしょに考えよう大切なこと・・・(2 時間)

ね ら い

- ・生活する上で必要と思うものがそれぞれの人で異なることを知る。
- ・友達との対話や学びを大切に、グループとして意見をまとめることができる。

学 習 活 動

・・・・・・・・・・(高齢者と子ども混合の4人程度のグループ学習)

1

配られた人権カードにどのようなことが書かれているか確認する。

2

人権カードを「なくてはならないもの」「なくてもがまんでできるもの」に分ける。
(それぞれ10個ずつ)

- ・優先順位をつける活動であり、「なぜそのように分けるのか」という個人の意見を出し合い、グループの意見としてまとめていくことを大切にさせましょう。
- ・後で発表しやすいよう、画用紙にカードを貼るようにしましょう。
- ・年齢や生活の仕方によって欲しいものが違ってくることに注目させましょう。



3

グループごとに、話し合ったことを発表する。

- ・「なくてはならないもの」について、「すぐにグループの意見がまとまったもの」「意見が分かれたもの」に分けて説明させましょう。
- ・「意見が分かれたもの」をどのように調整していったかを説明させましょう。

● 例

「自分の〔部屋〕は欲しいが、〔家〕があると生活できるので、〔家〕を選び〔部屋〕をがまんするようにした」
「おじいさんが毎日血圧の薬を飲まなければいけないと聞いたので〔病氣やけがの時の薬〕を〔なくてはならないもの〕に入れることにした」

4

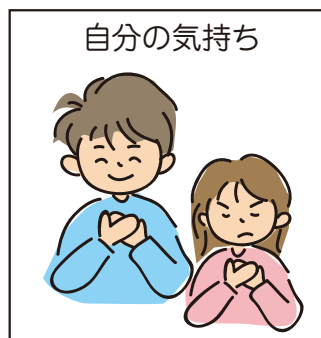
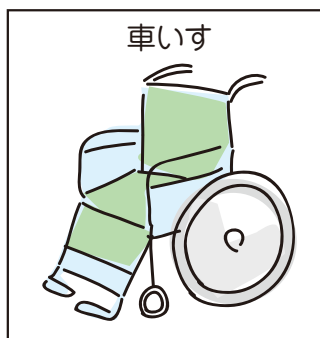
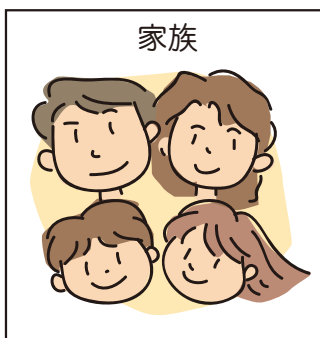
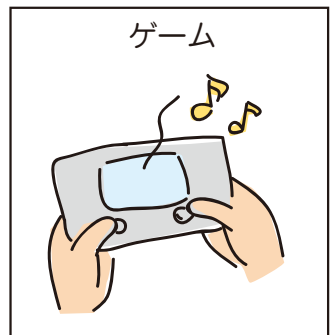
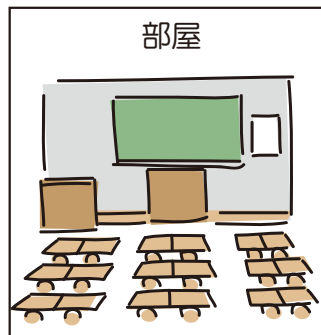
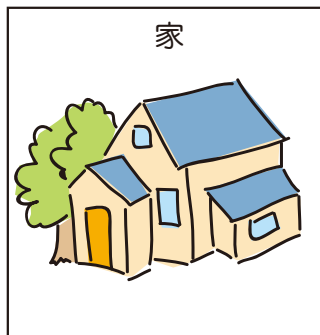
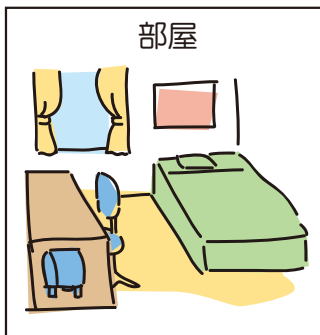
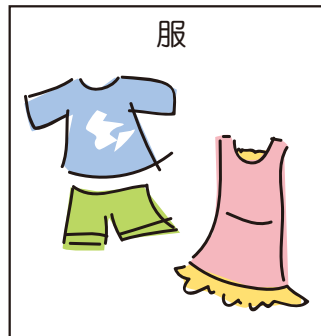
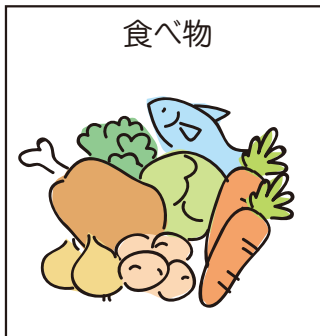
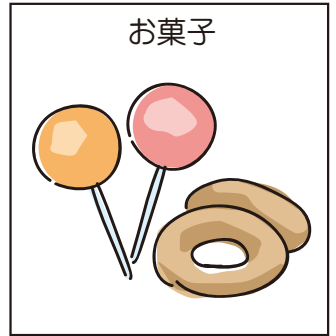
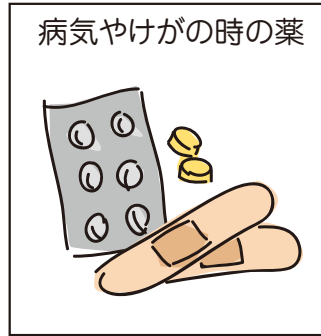
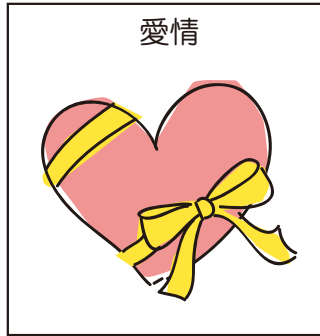
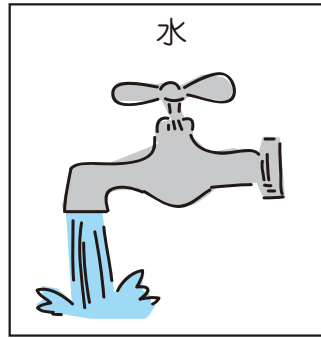
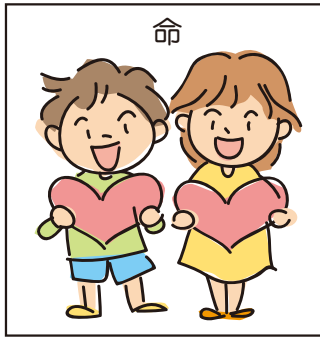
ふりかえり

- ・気づいたことや感想を発表させ、黒板にまとめましょう。
- ・「命」「水」「食べ物」のように「生命を維持する上で必要なもの」だけでなく、「遊ぶ時間」「友達」のように「楽しく生活するために大切なこと」もみんなが持っている当然のことであり、人権として認められていることを教えましょう。

ポイント

- カードを分けていくときに、自分の意見をきちんと言えたか、他人の意見をきちんと聴けたかを振り返ることを大切にしましょう。
- 高齢者との交流では、子どもたちが大人から温かく包んでもらうような感覚を味わうことが大切です。また、子どもたち同士では出されにくい考え方や感じ方に触れ、その理由について考えるよい機会となります。
- ふりかえりでも出された感想などを活動「ありがとうを表現しよう」に生かしましょう。

人権カード



参考:『わたしの権利みんなの権利』スーザン・ファウンテン(財)日本ユニセフ協会



STEP 2

ありがとうを表現しよう・・・(1時間)

ねらい

- ・高齢者への感謝の気持ちを言葉で表すことができる。
- ・ふりかえりによって今までの自分の活動を自己評価し、次に生かすことができる。

学習活動

1

活動の記録(ポートフォリオ)を読み直し、今までの活動を振り返る。

- ・P42を参考に、今までの活動を振り返らせましょう。

振り返る視点

「どのようなことがわかったか、できるようになったか」

「気づいたことは」「うれしかったことは」「驚いたことは」「失敗したことは」など

2

高齢者と交流して、心に残っていることについて話し合う。

- ・高齢者の協力で、野菜を育てることができたことを思い出させ、お礼の手紙などを書きたいという気持ちを引き出すようにしましょう。
- ・できるだけたくさんよかった点や感じた点を発表させ、板書しましょう。

3

「プレゼントカード」を作成する。

- ・どのようなときに、どのような気持ちになったかなどを、具体的に書かせましょう。
次のようなアドバイスが考えられます。

「交流していたときのおじいちゃん・おばあちゃんの様子を思い浮かべましょう。

おばあちゃんの料理の上手なところやすごいところ、言ってくれてうれしかったこと、手伝ってくれて助かったことや見つけたことをカードに書きましょう」

「カードの上の方に交流した人の名前、下の方に自分の名前を書きましょう」

- ・絵を添えて、気持ちを表現するのもよいことです。
- ・文の最後にお礼の言葉をつけさせましょう。
- ・高齢者に返事をもらえるよう協力をお願いしましょう。

ポイント

- ポートフォリオの記録を見ながら振り返り、その時々気持ちを思い出させましょう。
- 交流活動を機会に、高齢者に親しみを持ち、つながりを持ち続けられるようにしましょう。



活動ごとの評価規準

活動1 お話をしよう

- 目標 ● 友達と話し合う活動をとおして、人それぞれの思いがあり、そのどれもが大切なことに気づく。
● 話を聴いてもらうことの気持ちのよさに気づき、自分に自信が持てるようになる。

知 識

価値・態度

- ・自分の意見に自信を持って発表しようとしている。
- ・友達の発表を真剣に聴こうとしている。

技 能

- ・人によって思いや考えに違いがあることに気づき、受け入れることができる。
- ・自分の思いや考えを受け入れてもらうことの気持ちのよさに気づくことができる。

活動2 いっしょに野菜づくり

- 目標 ● 高齢者と共に活動することをおして、高齢者の優しい心遣いに気づくとともに、自分の役割に責任を持って取り組もうとする。

知 識

価値・態度

- ・みんなで決めた役割を協力しながら果たそうとしている。

技 能

- ・野菜づくりに様々な工夫がおこなわれていることに気づくことができる。
- ・友達との学び合いや対話を大切に、協力し合うことができる。

活動3 いっしょに考えよう

- 目標 ● 人によって生活する上で必要なものが異なることを知り、友達の考えを大切にしようとする。
● 友達との対話を大切にしながら、意見の一致をめざして話し合うことができる。

知 識

- ・生活する上で、だれにとっても必要なものがあることを知っている。

価値・態度

- ・友達の考えを大切にしようとしている。

技 能

- ・話題にそって話し合いを進めることができる。
- ・自分たちと高齢者とは必要なものが違うことに気づくことができる。